

15 自立活動（特別支援教育）

I 本県が目指す自立活動の指導

主体的に自己の力を可能な限り発揮できるよう、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導（個別の指導計画※に基づいた指導）

※通常の学級に在籍する配慮を必要とする児童生徒への指導に当たっても、適切かつ具体的な個別の指導計画の作成に努める必要があります。

II 自立活動の充実

指導内容を設定するまでのポイントとその具体

自閉症・情緒障害特別支援学級における、Aさん（小3）自立活動の指導内容の設定例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

実態把握（情報の収集・整理）

本人の願いや困難さを探る

▶障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境等の情報や本人の願いを収集する。

長所や得意なことを把握する

▶苦手なこと、困っていることの中に意識が向きがちだが、まず本人の願いに着目し、得意なこと、好きなことを把握する。

自立活動の6区分に即し整理する

▶障がい名のみから情報の収集・整理をせず、児童生徒の全体像を捉えて整理する。

Aさんの実態（一部を抜粋）

- ・自分から友達に話しかけることもあるが、相手の気持ちを想像することが苦手で、会話が成立しないことがある。
- ・自分のしたい遊びと友達のしたい遊びが異なると、自分の意見を言えず動きが止まり、気持ちの切り替えが難しい。
- ・地域で太鼓を習っており、太鼓の演奏が好きである。地区の祭りでは堂々と演奏し、準備や片付けにも進んで取り組んだ。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	成功体験の少なさから自己肯定感が低い、好きな活動では気持ち乗ることが多い。	自分の思いに添う活動では友達との関係を築けるが、意見が異なると自分の意見が言えず動きが止まる。			経験のあることや興味のある会話では、相手の話を聞いてから、自分の思いを伝えられることがある。

指導すべき課題の整理、指導目標・指導項目の設定

指導すべき課題の整理

- ▶これまでの学習状況や将来の可能性を見直し、必要な課題や本人の願いに焦点を当て、中心的な課題を選定する。
- ▶選定した課題については、課題同士の関連、指導の優先順位、指導の重点等について整理する。

指導目標（ねらい）と項目を設定

- ▶その年度の長期目標と、それを達成する学期ごとの短期目標を定め、段階的な指導ができるようにする。
- ▶目標と項目の設定に当たっては、現在の状態だけでなく、その状態に至った原因や背景も参考にする。

Aさんへの指導すべき課題と指導項目

- ①活動の中で友達の話聞くことを意識し、自分と友達の思いや考えの違いに気付く。
【人間関係の形成(2), コミュニケーション(5)】
- ②好きなこと・得意なことを生かした学習活動を通して、自分ができるようになってきたことや、友達の取組のよさに気付く。
【心理的な安定(1)(2), 人間関係の形成(2)】

指導目標を本人を主語に設定する

- 【長期】友達との話し合い活動や発表活動を通して、友達との円滑な関わりを知る。
- 【短期】得意な太鼓演奏を通して、一緒に活動する友達に自分の思いを伝える。

項目同士の関連付け、具体的な指導内容の設定

（参考：特別支援学校学習指導要領解説「自立活動編 P.111）

主体的に取り組む指導内容

- ▶何のために何をするのかが分かり、解決可能で、意欲がわく内容にする。
- ▶自己評価の機会を設け、児童生徒が成長を実感できるようにする。

発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容

- ▶学習者本人を主語に、できること、得意なことを更に伸ばす内容や、少し努力すれば達成できる内容を設定する。

自立活動を学ぶことの意義について考える指導内容

- ▶将来の自立や社会参加に向けて、児童生徒が学ぶことの意味に気付き、目的意識をもって取り組める内容にする。

個別の指導計画に設定した指導内容

ア	イ	ウ
心(1), 人(2)	心(2), 人(2), コ(5)	心(1), 人(2), コ(5)
安心できる友達との関わり合いを通して、得意な太鼓演奏に自信をもって取り組む。	話し合いや発表活動を通して、相手の状況に応じて自分の思いを伝えられるよう、考えを整理し、対応方法を身に付ける。	活動を通して、自分や友達のよさに気付いたり、違いを認め合ったりしながら、自己評価を積み重ね、自信を深める。

Ⅲ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

【学 年】 小学校3年 🧒 Aさん（自閉症・情緒障害特別支援学級「青空学級」在籍）

【自立活動】 題材名：交流学級の友達と一緒に得意な太鼓を演奏しよう

○Aさんの願い：太鼓には自信があるから、太鼓を打っているところをみんなに見てほしいな。
○自立活動のねらい（個別の指導計画短期目標より）
得意な太鼓演奏を通して、一緒に活動する友達に自分の思いを伝える。

【主な学習活動と具体的な指導内容】

○学習活動 端末とクラウドの活用例		授業改善の視点	Aさんの意識
♡学習改善につなげる評価場面の例		取組の具体例	交流学級Bさんの意識
【特別支援学級での学習活動】 交流学級の活動に安心して参加するための方法を知り、自信を深めることを目指す自立活動		時	【交流学級での学習活動】 総合的な学習の時間 互いの取組のよさに気づき、得意なことや違いの認め合いを目指す交流及び共同学習
得意なことを基に主体的に取り組む			
得意なことや興味・関心のあることを基に活動を設定することにより、安心して活動に取り組むことができるようにします。			
○交流学級での活動に見通しをもつ。 学校でも太鼓ができるのは楽しみだけど、練習や発表会は、ちょっと不安だな。 交流学級での活動の流れや練習用動画を示し、見通しをもって活動に参加できるようにする。	1 2	○発表会で発表する内容を考える。 ♡一緒に活動するグループや学習内容を知り安心して学習に参加しているか。 地域の太鼓クラブでAさんと一緒にやっている太鼓を発表したいな。	
○交流学級での練習に向けた事前学習をする。 Bさんと同じグループになって安心したよ。「一緒に頑張ろう」って伝えたいな。 付箋ツールに自分の気持ちを一度整理してから、発表グループのメンバーにメッセージを送る。 自分ができるようになってきたことを意識する 事前準備や友達と思いを共有する方法を積み重ねることで、自分から準備や練習を行えたり、友達に気持ちを伝えたりするようにします。 ♡友達の取組のよさに気づき、互いの思いや考えの重なった部分について考えようとしているか。 ○発表会のリハーサルを行い、見通しをもつ。 青空学級の練習で間違えずにできたから、本番も成功させようって付箋に書いたよ。	3 6	○発表会に向けた練習の場面で、発表グループごとにより姿や工夫を伝え合う。 課題の達成に向けて整えられた環境のもとで活動する 安心できるグループを構成し、互いの考えや思いを伝えられる場面を設定するようにします。 ♡Aさんは青空学級で学んだことを活用・発揮し、自分の思いや考えを伝えられたか。 直接話すのは緊張するけど、付箋に気持ちを書くと伝えやすかったよ。 自分の思いをクラウド上の付箋ツールに書いて友達と共有し、コメントを返信する。 Aさんの打つ構えがかっこいいから、私も真似してみたいって伝えたいよ。 ♡互いの取組のよさに触れ、思いに共感しながら主体的に学習しているか。	
自己評価により自分を見つめ直す			
学習前、学習中あるいは学習後に、自立活動を通して、学習上又は生活上の困難をどのように改善・克服するか（できたか）、自己評価につなげていくようにします。			
自分の成長を実感したり、課題を確認したりし、今後の活動への期待をもつ。 【長期目標に向けた本題材を通しての個の育ち】 交流学級での活動の前には付箋を楽しみに見てから準備をするようになり、発表グループの友達とも自信をもって関わる姿が増えた。	7 8	○学んだことを発揮し、発表会を楽しむ。 ♡学習したことを、今後の学習場面や実際の生活の中で生かそうとしているか。 Bさんに僕のいいところを教えてもらってうれしかったから、今度は僕がBさんのいいところを伝えたいな。	

【交流及び共同学習について】

障害のある子供と障害のない子供が、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする**交流の側面**と、各教科等のねらいの達成を目的とする**共同学習の側面**の両面が一体としてあるため、この二つの側面を分かちがたいものとしてとらえ、推進していく必要がある。

活動実施のポイント

□事前に、活動のねらいや内容等について子供たちの理解を深める。

□障害について形式的に理解させる程度にとどまるものにならないよう、子供たちが主体的に取り組む活動にする。

□事後学習で振り返りを行うとともに、その後の日常の学校生活において、障害者理解に係る丁寧な指導を継続する。